

劇団風の子中部

ぱりりとど

作・演出／中島研
美術／有賀二郎
わらべうた指導／古賀由美子
音楽監修／曲尾友克
制作／西川典之



あそび心をつなぐ

岐阜に拠点をすえ各地への公演を続ける中で、私たちは岐阜という地域をもっと知りたいたいと思いました。岐阜県は飛騨から美濃、そして美濃地域は東西にも広く、それぞれの土地に根付く豊かな文化があります。綿々と底に流れる人々の思いの深さ、そこから表現される伝統文化・芸能の数々。少しでも自分たちのアイデンティティを創造し全国の子どもたちに届けていきたい。私たちの内奥に創造の核が生まれた瞬間でした。そして私たちの取材の旅が始まりました。

どんなに苦しい時代でも、それははじき返してきた民衆の力、とりわけ子どもたちは“あそび”の中で文化を再創造し、今につなげてきたのではないか。今や子どもをとりまく社会は商業主義に汚染され続け大人も子どもも総動員されているかに見えますが、私たちは子どもを信じ、昔を懐かしみ伝統文化を見直すというだけに留まらず、現在と未来を生きる自分たちと子どもたちの手で、素晴らしい素材を生かしながら新しい劇空間を創り上げていきたいと思います。

おもな内容
昔あそび
お手玉
まりつき
なわとび
竹馬
風車
傘まわし
わらべうた
郡上踊り
語り芝居
岐阜の民話より
「はなさかこぞう」
（いくつかのプログラムを組み合わせせて上演致します）

懐かしい遊び、
新しい遊びが盛り沢山！

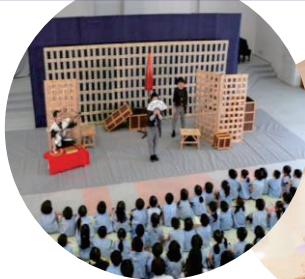


～三味線の生演奏
にのせて～

語り芝居「はなさかこぞう」

むかしむかし、一平という男の子がおっかさんと暮らしていました。働き者のおっかさんは毎日畑仕事へ行き、一平はそんなおっかさんを助けてやりたいと思っていました。そんなある日、川からどんぶらこどんぶらこと、なにやら流れてきました。それはなんとまあ、大きな大きな柿でした。さっそく柿を切ると、そこから飛び出したものは…。おっかさんの怪我。欲張りな殿さまの無理難題。さて一平は、どう乗り越えるのでしょうか。

さらや拍子木など、鳴り物が物語に彩りを添えます。美濃和紙で出来た衣装や小物に華やかな和傘など岐阜の魅力あふれる舞台上、三味線の音色と共に語られる、一平のちょっと不思議な昔話。



撮影・大館洋志

劇団風の子中部

〒500-8241 岐阜県岐阜市領下 21-16
TEL : 058(215)7780 FAX : 058(215)7781
E-mail : tokai@kazenoko.co.jp